

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

## 2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ④観光分野(2/6)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
九州アジア観光アイランド総合特区(福岡県等)	正	4.2	4.7  <u>進捗度</u> ・アジアを中心とした九州への入国外国人人数 197%  ・九州における年間観光消費額 81%  ・九州への外国クルーズ客船の延べ寄港数・延べ寄港者数 357%	3.9  <u>規制の特例等</u> ・地域活性化総合特別区域通訳案内士育成等事業  <u>地域独自の取組</u> ・九州観光推進機構による国内外とのネットワークの構築  等	4.0	<p>・現場で感じた課題から事業を立案し、着実に積み重ねた成果がうかがえ、高い評価に値する。特にクルーズ誘致は大きな成果が表れている。</p> <p>・高単価・高付加価値観光宿泊商品の開発促進、育成・登録した特区ガイドの活動の場増大へ向けたさらなる工夫等、九州ならではの観光コンテンツの編集を急ぎ、訪日観光客のリピーター対策に向けた、持続的に経済効果を生む戦略が求められる。</p> <p>・本事業の中心である特区ガイドの育成は、評価指標とはほとんど関係がないので、多言語対応可能な通訳案内士群の存在を九州観光の「価値」として内外へ広く発信・訴求していくことが必要である。本事業の成果を適切に評価できる指標を再設定されたい。</p>

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。